

# 国立競技場

2013. **11・12**

600号記念

SPORTS  
JAPAN  
SPORTS  
JAPAN  
SPORTS  
JAPAN



**祝!** 東京オリンピック・パラリンピック  
**2020**年開催決定!

# 広報紙 国立競技場

## 600号 発行に寄せて

広報紙「国立競技場」は、本号をもちまして創刊600号を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご支援とご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

本紙は、『月刊国立競技場』として、1958（昭和33）年の国立競技場設立当時から現在まで、当法人が管理・運営するスポーツ施設の情報と併せて、スポーツの持つ価値を広く関係者の皆様に発信してまいりました。2004（平成16）年5月から隔月発行となり『国立競技場』と表題を改めましたが、54年間に渡り絶えることなく発行を続けて、600号を数えるに至りました。

1964年の東京オリンピックをきっかけとして、スポーツに対する関心が高まり、日本国民のスポーツの振興と健康の保持増進が国の重要課題となっていきました。国立競技場の目的はまさにこの課題に対応するものであり、単なるスポーツ施設に止まらず、スポーツ文化の発展を通じて健康で文化的な生活に資することでした。そして、高水準な施設を維持管理しながら多くのスポーツ競技大会やイベントに利用され、また一般利用も可能な限り推進するなど、国立競技場を通じてスポーツの持つ価値を広く国民の皆様に伝え、スポーツの振興に努めてまいりました。1964年東京オリンピックに向けて建設された代々木競技場や、1962（昭和37）年に財団法人日本ラグビーフットボール協会から移管された秩父宮ラグビー場、1972（昭和47）年に建設された西が丘競技場とともに、国立競技場は日本のスポーツ史において、様々なドラマを生み出す「聖地」として、人々の記憶に刻まれてきました。

加えて、2001（平成13）年に国立スポーツ科学センター（JISS）、2008（平成20）年にナショナルトレーニング



独立行政法人  
日本スポーツ振興センター  
理事長 **河野 一郎**



月刊国立競技場（第1号）  
S33.12.1 発行

ングセンター（NTC）を設立し、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）・競技団体・大学・国内外のスポーツ研究機関と連携しながら、日本の国際競技力向上のための支援を行っております。充実した最新施設・設備や、研究員の取組みについても本紙で紹介させていただいております。

その他にも、国立競技場内にある秩父宮記念スポーツ博物館の貴重な展示品や、2009（平成21）年に文部科学省から移管された国立登山研修所の取組み等、施設の運営を通じてスポーツに関する幅広い情報を発信してまいりました。

さて、記憶にも新しい9月7日、ブエノスアイレスで行われたIOC総会で、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。2020年の大会時にアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、メインスタジアムとなる新国立競技場の建設やアスリートへのサポートのさらなる充実等、気が引き締まる思いです。日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）として、総力を挙げ取り組むと同時に、今後も本紙を通じて皆様にとって有益な情報を発信できるよう努めてまいります。

今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますよう心からお願いいたしまして、創刊600号発行に際してのご挨拶とさせていただきます。

なお、本号は創刊600号と2020年オリンピック・パラリンピック東京開催決定を記念し、通常の8ページから12ページに増やして1964年の東京オリンピックとこれまでの国立競技場の歴史を振り返る特集号といたしましたので、ご覧いただければ幸いです。

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動を通して

### ●●●●● 「夢は続く」 ●●●●● 新たなスタート ●●●●●

日本スポーツ振興センター SPORTS JAPAN アンバサダー  
佐藤真海さん



#### ●●●●● 運命の瞬間 ●●●●●

現地時間の9月7日午後5時、ブエノスアイレスで行われた2020年夏季東京オリンピック・パラリンピックの開催都市を決めるIOC総会で、IOCジャック・ロゲ会長が手にした「T O K Y O 2020」と書かれた紙を見た瞬間、思わず椅子から跳び上がりました。すぐ隣で安倍首相が同じように大喜びし、一緒に招致活動をしてきたメンバーが泣いている姿も目に入ってきました。私も少し涙がこぼれてきましたが、その日の午前中の最終プレゼンテーションのトップバッターとして登壇し、そこで全ての力を出し切っていたので、もう喜びが残りませんでした。

#### ●●●●● スピーチに込めた思い ●●●●●

私がプレゼンテーションのスピーチで訴えたのは「スポーツの力」です。スピーチの構成は、私のこれまでの歩みそのものでした。大学生のときに骨肉腫のため膝下を切断。義足で陸上に打ち込み、パラリンピックという目標に向かって打ち込んできたこと、2011年3月の東日本大震災で実家も含めて故郷が津波の被害に遭ったとき、多くのアスリートたちが東北を訪れて元気を届けてくれたこと……たくさんの人たちに支えられ、励



ましてもらいながら困難を乗り越えた先に夢があることを知ることができました。スピーチに込めた思いは、出会いを作ってくれたスポーツの素晴らしさと感謝の気持ちでした。そして、「失ったもの、自分がないものを嘆くのではなく、持っているものをいかに高めていくか」。パラリンピアンとして得た教訓も反映させました。

#### ●●●●● 新たなスタート ●●●●●

帰国後、たくさんの人たちから「ありがとう」という言葉をいただきました。あのスピーチが、日本にこれほど伝わっていると想像もしませんでした。同時に、2020年に向けてよいスタートが切れたと思っています。自分が活動することでパラリンピックへの関心や理解も高まり広がるからです。これからの7年間、そのことをプラスの力にして活動を続けたいと思っています。「夢は続く」。招致の夢は叶いましたが、ここからが新たなスタートです。夢に終わりはありません。震災からの復興やバリアフリー化の推進なども含めて、東京で半世紀ぶりとなる「スポーツの祭典」が、たくさんの願いや夢を叶える大会となるように、私も夢の続きを追い求めていきたいと思っています。

#### SPORTS JAPAN アンバサダーの佐藤真海さんの活動レポート

2013年5月、修学旅行で国立競技場の見学に来られた岐阜市立東長良中学校3年生にスポーツの素晴らしさ、夢を持つことの大切さを、ご自身の想いや体験からお話していただいたときの様子。

SPORTS JAPAN アンバサダー ウェブサイト  
<http://www.jpnsport.go.jp/Portals/0/ambassador/>

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック東京開催決定！ 国立競技場の聖火台に灯がともる

2020年東京オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定したことを祝して、9月8日（日）、国立競技場の聖火台に灯がともされました。

当日は、国立競技場で日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されていましたが、関係者の皆様のご理解・ご協力を得て、競技の合間となった12時20分頃、選手・観客の皆様のカウントダウンを合図に聖火が点火され、場内に歓声と拍手が沸き起こりました。

1964年の東京オリンピックのメイン会場として使用された国立競技場は、2019年に新しい姿に変わりますが、

再びオリンピック・パラリンピックのメイン会場として使用されることとなります。

聖火点灯のセレモニーは多くのメディアで取り上げていただき、国立競技場とそのシンボルである聖火台の歴史の重さ、そしてオリンピック・パラリンピック東京開催の盛り上がりを実感しました。



# 新国立競技場の「これから」

先日の9月7日（現地時間）、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催が決まりました。南米からの知らせは、日本中に喜びの渦を巻き起こし、7年後への期待を大きく膨らませました。この招致成功が、日本に大きな希望と活力を持続的にもたらしてくれるものと確信しています。

現在の国立競技場は1958年に建設され、1964年の東京オリンピックの主会場となりました。開会式は目に沁みするような秋晴れの中、実に明るい雰囲気で行われたと聞いております。国立競技場は、建設以来半世紀以上の間、多くの名勝負、多くのドラマを生み出す舞台となってきました。

その一方、50余年の歴史の中で、老朽化や機能的に国際基準を満たさないなど大規模な国際競技大会の開催が難しい現状となっています。このため、国立競技場を建て替え、世界に誇れる新しいスタジアムの建設を目指し、2012年3月「国立競技場将来構想有識者会議」を設置し、国立競技場の将来構想について検討してまいりました。

その検討結果に基づき、2012年7月から、広く世界からデザイン案を募集する国際デザイン・コンクールを行い、最優秀作品にザハ・ハディド氏が選ばれました。その表彰式について、本紙2013年5・6月号で報告させていただいたところです。最優秀賞に選ばれたザハ・ハディド氏の作品について、審査講評では「極めてシンボリックな形態だが、背景には構造と内部の空間表現の見事な一致があり」、「世界に日本の先進性を発信し、優れた建築・環境技術をアピールできるデザインである」とされ、

「日本として世界に誇れる最高の競技場が創造されると同時に、この競技場にこめられるであろうエネルギーが新しい時代の表現、未来に向けたメッセージとなることを大いに期待する。」と結ばれております。

現国立競技場は、日本の成長とともに歩み続けたこれまでの50余年間、日本におけるスポーツの「聖地」として位置づけられています。新しい国立競技場は、新たなシンボルとして、世界に誇れるスタジアムを目指したい、その思いがあります。

新しい国立競技場は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開・閉会式、陸上競技、サッカー及びラグビーの会場となる予定であり、その前年2019年日本開催が決まっているラグビーワールドカップにおいても開幕試合や決勝の会場となる予定になっています。

これらの競技大会の開催は、世界中が日本に注目し、日本を世界に発信する機会になります。大規模国際大会は、スポーツのみならず日本の自然、文化、芸術、技術や国民性までも世界に発信します。新国立競技場の存在は、その後も大規模国際大会などを誘致できる可能性を大きくするでしょうし、誘致の活動そのものにも役立つことと思います。そのためにも、日本唯一の8万人規模となる新しい国立競技場は、「ここで試合をしたい」、「この場所で試合を見たい」いちばんのスタジアムを目指します。そして様々な競技大会が行われるとともに、日本の先進性を発信する場ともなっていくことでしょう。



新国立競技場イメージ図（内観・陸上競技）

ザハ氏のデザインについて、多方面から検討を重ね、これから現実のものにしようとしているところです。

新たな歴史を刻むために、2014年7月から、現国立競技場の解体工事が予定されています。現在の国立競技場の、その歴史に敬意を表して「SAYONARA国立競技場」プロジェクトの計画も進んでおります。

ロンドンオリンピックのメダリストたちによる凱旋パレードに、50万人という途方もなく多くの観衆が集まりました。東日本大震災では、アスリートたちが積極的に被災地に向かい、また被災地のアスリートも悩み、迷い、葛藤を感じながらも、みんなを元気にするために活躍しています。スポーツには力があります。新国立競技場は、そのシンボルとして新たな時代を歩んでいきたいと思っています。

6年後の完成に向けて、世界でいちばん行きたくなるスタジアムを、みんなで創る。スポーツの力で、世の中をもっと良くするために、今後とも、皆様のご指導とご支援をお願いいたします。

新国立競技場の建築に当たり、現在フレームワーク設計を進めているところですが、技術的な難しさ、スケジュールがタイトであることや事業運営の在り方など十分に検討しなければならないことが山積しており、簡単なことではありません。

しかし、デザインについて、著名な建築家の「技術的に非常に難しく、日本の技術がないとできないと思う。日本の建築・土木の集大成として表現でき、挑戦しがいのある建築になるだろう」という論評に表現されるとおり、種々の困難は、乗り越えられるべき事柄であることと思います。



新国立競技場イメージ図（外観）

新国立競技場イメージ図（外観）



現国立競技場/聖火台からの眺め



# 色とデザインで見る1964年東京オリンピック

## ——秩父宮記念スポーツ博物館所蔵品——

1964年東京大会は、それまでのオリンピックのデザインを大きく変える画期的な大会でした。そして、このオリンピックはその後の日本のあらゆるデザインに影響をあたえたのです。COOL JAPANの原点はここにありました。

### 振袖

大会コンパニオンが表彰式のメダルを運ぶ際に着用した振袖。柄はオリンピックシンボル（5つの輪）や菊をモチーフとし、高島屋、三越など当時の百貨店がそれぞれにデザイン紋のかわりには金糸の刺繍で描いたオリンピックシンボルを配してあります。振袖は情趣あふれる日本の優雅な伝統美を世界に向けてアピールしたのです。



金糸で刺繍されたオリンピックシンボル



### デレゲーションユニフォーム （日本選手団の公式制服）

1964年当時流行した男性服ブランドの「VAN」を創設した石津謙氏によるデザインで、3つボタンのアイビー調のユニフォームとなっています。男女ともに赤いブレザーを採用し、男子は白のズボン、女子は白のスカートを着用して日の丸をイメージした出で立ちとなっています。



選手宣誓を行い、体操団体総合で金メダルを獲得した小野喬氏が着用したユニフォーム



デザインは河野鷹思が担当した

### 識章バッジ・リボン

関係者が胸に付ける金色の識章バッジには、シンボルマークがモチーフにされました。選手、コーチ、審判、プレスなどは四角の中に丸、皇室やIOC・NOC・IFの会長などのVIPの識章バッジは金色の四角の周囲にオリンピックカラーの5色があしらわれています。バッジの下のリボンは色や線によって23種類が制作されました。

### ポスター 第2号ポスター

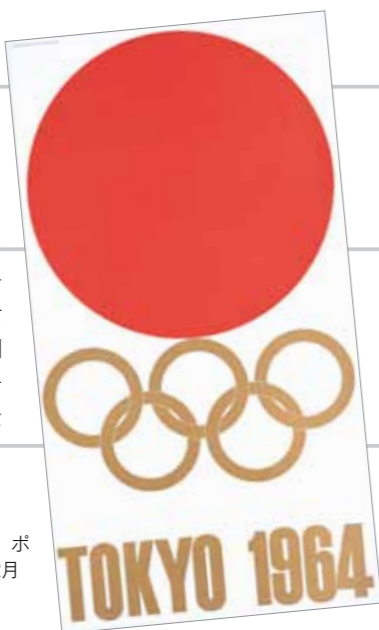
第1号とは異なり、競技シーンを写真で表現したポスター。撮影は1962年の冬の夜の国立競技場。30回ほど撮り直しが行われ、約100カットの中から1枚が選ばれました。



アートディレクターは亀倉雄策、フォトディレクター村越襄、フォトグラファー早崎治。ポスター作成は1962年5月

### ポスター 第1号ポスター

シンボルマークをそのまま大きくしてポスターにした「第1号ポスター」。デザイナーの亀倉雄策は「日本の清潔なしかも明快さと、オリンピックのスポーティな動感とを表わしてみたかった」と語っています。



デザインは亀倉雄策、ポスター作成1961年2月

### 招待状とパッケージ

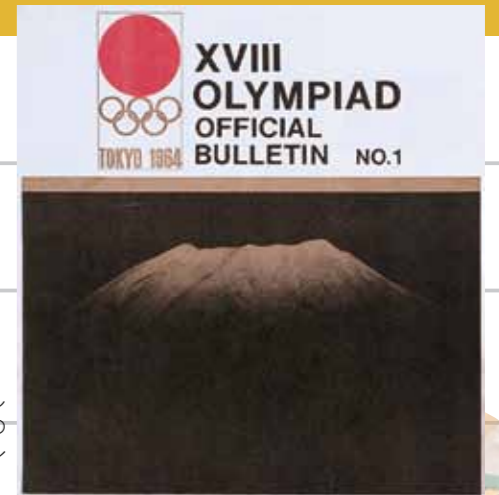
世界各国のオリンピック委員会に宛てて東京大会への参加を要請する「招待状」。招待状本文には和紙を用いてあります。二つ折り屏風形式の台紙には五色織布を貼りこみ、台紙の外側は金糸と銀糸で歌集波文をあしらった絹地となっています。

招待状、パッケージ、ともにデザインは原弘が担当



招待状

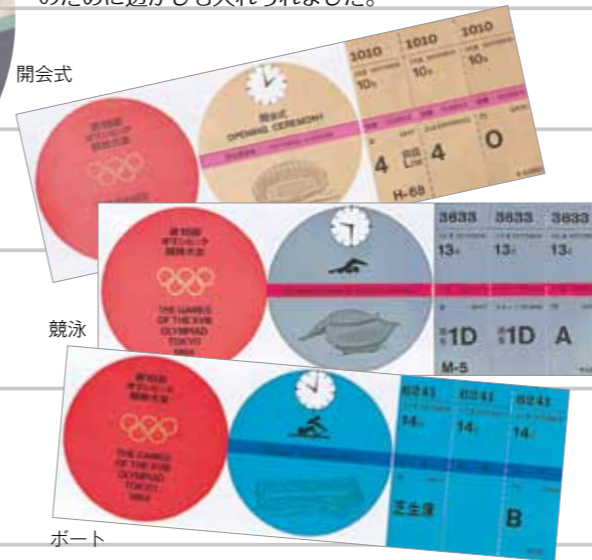
パッケージ



富士山をデザインした海外向け第1号の表紙。アートディレクションは原弘

### 入場券

入場券は異なる言語の人でもわかるように、「競技シンボル」「競技場」「時計」のイラストが用いられました。「時計」は競技や日付によって異なった時刻が長針・短針の位置で表示され、それが開始時刻を表しています。偽造防止のために透かしも入れられました。



開会式

競泳

ポロ

すべてデザインは原弘が担当

### 会報誌

オリンピックへの準備の進捗を広報するため、大会組織委員会は国内、海外それぞれに向けて会報誌を発行。国内向けは「東京オリンピック」というタイトルで1960年3月から、海外向けは「XVIII OLYMPIAD OFFICIAL BULLETIN」というタイトルで1961年5月から発行されました。海外向けは英文・仏文併記。

### 金銀銅メダルと参加メダル

金銀銅メダルは1928年アムステルダム大会以来踏襲されている勝利の女神「ニケ」が描かれたデザイン。メダルを吊るすリボンは、オリンピックカラーの5色と白でデザインされた絹の西陣織です。参加メダルはブロンズ製で色は黒、桐箱に収められ、参加選手と役員に配布されました。



金メダル

参加メダルは、表を岡本太郎、裏を田中一光がデザイン

### ピクトグラム

言葉の壁をこえたコミュニケーションを図るため、大きく分けて2種類のピクトグラムが制作されました。それぞれの競技を表す「競技シンボル」は1936年ベルリンオリンピックから使用されていましたが、1964年東京大会ではよりシンプルかつシャープなデザインになりました。レストラン、観客席、トイレなどを表すピクトグラムは「施設シンボル」とよばれ、国際的な行事で使用されたのは、1964年東京オリンピックがはじめてでした。



「競技シンボル」は、山下芳郎がデザインを担当



「施設シンボル」は、田中一光、福田繁雄、横尾忠則など十数人がデザインを担当

### 【参考資料】

秩父宮記念スポーツ博物館編集・発行2006「スポーツ文化」第3号／東京国立近代美術館編集・発行2013「東京オリンピック1964デザインプロジェクト」／秩父宮記念スポーツ博物館編集協力2006「東京オリンピック1964・2016」（メディアパル）／1998「デザインの現場100号」（美術出版社）

# 最後の 聖火台磨きと 聖火台物語



PHOTO by Agence SHOT

## 聖火台磨き

9月1日(日)、国立競技場で開催された「2013東京アスレチックチャレンジ」(主催/東京アスレチックチャレンジ実行委員会・ミズノ株式会社・一般社団法人東京陸上競技協会)の中で、陸上男子ハンマー投げの室伏広治選手(ミズノ)が、1964年東京オリンピックのレガシー(遺産)である国立競技場の聖火台を磨きました。

室伏選手は、聖火台を製作した鋳物職人、鈴木萬之助さんと鈴木文吾さん(いずれも故人)親子の物語に感銘を受け、鈴木さんの遺族らと共に2009年から毎年、聖火台を磨いて

いますが、国立競技場は2019年3月完成を目指し、来年7月頃から改修工事に入るため、現国立競技場での聖火台磨きは今回が最後となりました。

そして1週間後に迫った2020年オリンピック・パラリンピック東京開催への願いと、最後の聖火台磨きに特別な思いを含め、鈴木萬之助さんの四男、昭重さんやイベントに参加した未来のアスリートたちと一緒に汗をぬぐいながら磨き上げた結果、その思いは地球の反対側プエノスアイルスへ届いたのです。

## 聖火台物語

国立競技場を54年間も見守りながら、聖火台の制作にまつわる職人の悲話は、意外にもまだあまり知られていません。そこで、建て替えを控えた国立競技場のシンボルである聖火台製作の物語を、再度皆さんの心に刻んでいただきたいと思います。

聖火台は高さ2.1メートル、重さ2.6トンの鋳物<sup>いもの</sup>で造られました。製作者は川口市の鋳物師、鈴木萬之助さんと三男の文吾さん。1957(昭和32)年、68歳の萬之助さんは、生涯最後の仕事として、文吾さんとともに3か月後の納期を

目指して聖火台鋳造工事に取り掛かりました。寄る年波と持病に苦しみながらも、萬之助さんは誇りをかけて鋳造に取り組み、2か月後に鋳型を完成させました。しかし、溶かした鋳鉄を鋳型に流し込んだところ鋳型は大破し、全精力を傾けた2か月間の作業が無となってしまいました。長い職人人生で培われた自信は泡と消え、その体にもう余力は少なく、萬之助さんはその夜から床に伏し8日後に帰らぬ人となりました。

非業の死をよそに、聖火台の製造期限は1か月後に迫っていました。父の無念を晴らすべく、文吾さんを中心に家族総出で突貫工事にあたり、聖火台は納期直前にみごと完成したのです。

1958(昭和33)年5月24日、アジア大会の開会式で聖火台に灯がともり、そして6年後に東京オリンピックが実現。聖火台は以後、毎年10月10日前後に三男文吾さんの手で丹念に磨かれ続け、2008年に文吾さんが他界した後も、弟や息子たちに引き継がれてきました。

鈴木家の魂が宿る聖火台は、半世紀の間、国立競技場の高みから大観衆と数々の名勝負を見守り続けてきたのです。

貴重な歴史的財産である聖火台の今後については、何らかの形で保存していくことを検討しております。



聖火台を磨く文吾さん

## 国立競技場 略年表

- **昭和33(1958)年**
  - 3.25 霞ヶ丘陸上競技場完成(収容人員58,000人)
  - 4.1 特殊法人国立競技場発足
  - 5.24 第3回アジア競技大会開会(6/1まで)
  - 7.24 7万人の夕涼み(以後昭和36年まで毎年実施)
  - 12.1 「月刊国立競技場」創刊
- **昭和34(1959)年**
  - 1.1 第12回ライスボウル開催(平成2年度第44回大会まで実施)
  - 1.6 秩父宮記念スポーツ博物館開館式
  - 10.25 第14回国民体育大会開会(10/30まで)
- **昭和37(1962)年**
  - 3.30 陸上競技場拡充工事起工式
- **昭和38(1963)年**
  - 4.18 陸上競技場新走路完成(アンツーカー)
  - 10.4 陸上競技場新装完成披露会(収容人員71,328人)
- **昭和39(1964)年**
  - 10.10 第18回オリンピック東京大会開会式(霞ヶ丘陸上競技場では陸上競技・サッカー・馬術が行われた)
  - 10.24 オリンピック東京大会閉会式
- **昭和40(1965)年**
  - 5.7 霞ヶ丘水泳教室開講
  - 6.23 オリンピック東京大会優勝者銘盤完成披露



- 10.10 オリンピック記念スポーツの日中央大会
- **昭和41(1966)年**
  - 4.14 トレーニングセンター開場式
- **昭和42(1967)年**
  - 8.27 第10回ユニバーシアード東京大会開会(9/4まで)
- **昭和43(1968)年**
  - 1.14 第47回天皇杯全日本サッカー選手権大会決勝(以後毎年実施)
- **昭和44(1969)年**
  - 1.1 第48回天皇杯全日本サッカー選手権大会決勝(以降元旦実施)
  - 9.27 第1回太平洋沿岸五カ国陸上競技大会(9/28まで)
- **昭和46(1971)年**
  - 4.24 アジアユースサッカー大会(5/5まで)
- **昭和48(1973)年**
  - 9.15 陸上競技場全天候型走路完成
- **昭和49(1974)年**
  - 1.6 ラグビー大学選手権大会(以後毎年1月上旬に準決勝・決勝戦を実施)
- **昭和50(1975)年**
  - 1.15 第12回ラグビー日本選手権大会決勝(以降平成13年を除き平成16年まで毎年実施)
- **昭和51(1976)年**
  - 1.18 第1回ジャパンボウル(全米学生選抜アメリカンフットボール)

次ページに続く

### Q1

1964年の東京オリンピックの6年前にあたる1958年に国立競技場は設立された。ではこの年に国立競技場で行われた国際競技大会は何?

- ① ユニバーシアード
- ② アジア競技大会
- ③ パラリンピック



1958年の大会の入場行進

### Q2

1964年の東京オリンピックの開会式で国立競技場に入場した参加国・地域のなかで、閉会式までに国名がかわった国があった。それは現在の何という国?

- ① ボスニア・ヘルツェゴビナ
- ② ザンビア
- ③ 東ティモール

### Q3

2020年のオリンピック・パラリンピックのマラソンでは、新国立競技場はどのような役割を果たす予定?

- ① スタート地点のみ
- ② フィニッシュ地点のみ
- ③ スタート地点とフィニッシュ地点

## OLYMPIC オリンピック

東京オリンピックにちなんだクイズです。  
みなさんは何問解けますか?

## クイズ

### Q4

1964年の東京オリンピックのマラソンで円谷幸吉選手は陸上競技唯一の日の丸を国立競技場に揚げた。ではそのマラソンの最終トラック勝負で円谷選手を抜いたのはだれ?

- ① エチオピアのアベベ選手
- ② 米国のヘイズ選手
- ③ 英国のヒートリー選手

### Q5

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前年である2019年に新しい国立競技場で行われる予定の国際競技大会は何?

- ① ワールドカップ
- ② アジア競技大会
- ③ ユニバーシアード

### Q6

2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決まったことで、いままでも東京がオリンピック招致に成功した回数は何回になる?

- ① 2回
- ② 3回
- ③ 4回

※答えは次のページ 9

## 国立競技場 略年表

### ● 昭和52(1977) 年

- 1.1 第55回全国高校サッカー選手権大会開会式(8日決勝。以後毎年実施)
- 9.10 SAYONARA GAME IN JAPAN ペレ引退試合(10日 ニューヨーク・コスモス vs 古河電工、14日 ニューヨーク・コスモス vs 日本代表)

### ● 昭和53(1978) 年

- 9.25 8カ国対抗陸上競技大会(東京オリンピック以来14年ぶりに聖火台点灯)

### ● 昭和54(1979) 年

- 5.31 アジア陸上競技大会(6/3まで)
- 8.25 FIFAワールドユースサッカー選手権大会(8/27~9/7)
- 11.18 第1回東京国際女子マラソン(以後平成2年を除き平成20年第30回大会まで実施)

### ● 昭和56(1981) 年

- 2.8 第1回東京国際マラソン(以後平成18年第27回大会まで実施)
- 12.13 第2回サッカートヨタカップ(南米対欧州クラブ代表戦。以後2001年まで毎年12月に実施。第1回は同年2/11に開催)

### ● 昭和57(1982) 年

- 12.5 ラグビー早明戦(ラグビー競技過去最多の有料入場券発売。6万6999枚)



### ● 平成3(1991) 年

- 8.23 第3回世界陸上競技選手権大会(9/1まで)

### ● 平成5(1993) 年

- 5.15 Jリーグ開幕式、開幕戦

### ● 平成8(1996) 年

- 6.29 三大テノール日本公演

### ● 平成11(1999) 年

- 12.30 第78回全国高校サッカー選手権大会開幕戦(この年から開幕戦を実施)

### ● 平成14(2002) 年

- 6.4 2002FIFAワールドカップパブリックビューイング(日本戦4試合、準決勝1試合)

### ● 平成16(2004) 年

- 7.28 陸上競技場芝生拡張工事(107m×71mに拡張)

### ● 平成17(2005) 年

- 9.3 SMAPコンサート(単独のアーティストとして行った初のコンサート 9/4まで。翌年も開催)
- 12.11 FIFAクラブワールドチャンピオンシップ(12/14,16トヨタカップに変わるFIFA主催のクラブ世界一決定戦)

### ● 平成20(2008) 年

- 4.1 国立競技場50周年
- 9.5 嵐コンサート(9/6まで。以後2013年まで毎年実施)

### ● 平成21(2009) 年

- 7.5 石原裕次郎13回忌法要
- 10.31 ブレディスローカップ(ラグビー)

### ● 平成24(2012) 年

- 8.19 FIFA U-20女子ワールドカップ(9/8まで)



## ファンランDAY2013 SAYONARA国立競技場

今年の「ファンランDAY」は、目的別に分かれて行うクリニックをより充実させ、初級者から上級クラスはもちろん、コンディショニングやヨガなどのプログラムもあり、さらにグレードアップしています。また、ランニング後の「ランフードスタジアム」では、身体に嬉しいランフードを楽しめるだけではなく、ゲストによるトークショーや太田プロダクションによるライブも開催されます。皆様のご参加をお待ちしています。



詳しくは <http://www.jpnsport.go.jp/kokuritu/event//tabid/370/Default.aspx>

## 国立競技場主催ランニングイベント

国立競技場は来年7月から解体予定のため、最後のファンランDAYとなります。

## 2013年11月10日(日) 国立競技場・神宮外苑外周

主催：独立行政法人日本スポーツ振興センター(国立競技場)

共催：日刊スポーツ新聞社

協力：国立霞ヶ丘競技場管理・運営共同企業体(シミズオクトグループ)

株式会社太田プロダクション、シダックスフードサービス株式会社

### 「クリニック&1時間ラン」

ペースメーカーを配置し、国立競技場トラック~国立競技場コンコース~神宮外苑周回コースを1時間走ります。  
※募集しめ切りました

### 「ランフードスタジアム」

・ランニングの後は、おいしいオリジナル料理等のランフードをご用意。  
・ゲストを招いたトークショー等やお笑いライブも実施。  
・「ランフードスタジアム」は一般の方も参加可能です。

## オリンピッククイズの答え

### A1

#### ②アジア競技大会

東京オリンピック招致活動を展開中の1958年に第3回アジア競技大会が東京で行われた。現在の国立霞ヶ丘陸上競技場は、この大会に合わせて旧明治神宮外苑競技場を解体して建造した。

### A4

#### ③英国のヒートリー選手

1964年の東京オリンピックのマラソンで円谷幸吉選手はエチオピアのアベベ選手に次いで2番目に国立競技場に帰ってきた。しかし、後から追いかけてきた英国のヒートリー選手にトラックで抜かれ、3位でフィニッシュ。抜かれたとき観客からは大きなため息がもれたが、フィニッシュのときには拍手にかわった。

### A2

#### ②ザンビア

1964年10月10日、第18回オリンピック東京大会の開会式で、参加94の国と地域による入場行進の67番目に入場したアフリカの「北ローデシア」は、その時点ではイギリスの保護領だった。ところが10月24日にザンビア共和国として独立したため、同日行われた閉会式では新しい国名で入場行進した。

### A5

#### ①ワールドカップ

ワールドカップといってもサッカーのFIFAワールドカップではなく、ラグビーのワールドカップ。2019年第9回大会のメイン会場は新国立競技場になる予定。ちなみにその4年前である2015年の第8回大会はイングランドで開催される。



ザンビアの国旗

### A3

#### ③スタート地点とフィニッシュ地点

新国立競技場をスタートした選手たちは四ツ谷から外堀通りを走り、水道橋、神保町、皇居前広場を経由して日比谷通りへ。増上寺の前付近で大きく2回左折したら第一京浜を北上し、銀座を走り抜ける。日本橋を越え、神田の先から右折し、浅草橋を左折したら蔵前を経由して浅草の折り返し地点へ。ここからは来た道を逆にたどって新国立競技場に戻る、というルート。(2013年10月現在の予定)

### A6

#### ②3回

戦争のために東京が返上し中止になった1940年第12回オリンピック東京大会も含めて、東京がオリンピック招致に成功したのは3回になる。ちなみに東京がオリンピック招致活動を行ったのは、この3回以外に、1960年の第17回大会(開催はローマ)と2016年の第31回大会(開催予定はリオデジャネイロ)がある。



1940年第12回オリンピック東京大会ポスター公募入選作品

# Carl Lewis in Magic Carpet

## 秩父宮スポーツ博物館SAYONARA国立競技場展のご紹介

特別展「SAYONARA 国立競技場」は名前の通り国立競技場の55年の歴史が分かる展示となっています。

エントランスから階段をあがっていただくと、まず1964年の東京オリンピックの金・銀・銅メダルがご覧いただけます。50年を経ても尚、絢爛と輝く金メダルは当館にお越しの際は必ず見ていただきたい一品です。

他にも大会で使用されたパンフレットやチケットの実物は、この地で行われた競技大会の雰囲気がいっぱい詰まっている資料です。それは何も東京オリンピックに限らず、ここには1958年の第3回アジア競技大会や、1967年ユニバーシアード競技大会など、国立競技場が歩んできた時代の証があります。

今回ご紹介したい展示品は、1991年に開催された第3回世界陸上の際に「国立競技場で使われていた陸上トラック」です。



1991年の世界陸上でカール・ルイスが走った陸上トラック

こちらの陸上トラックは1990年から2011年までの22年間、国立競技場で使われていたものです。

ウレタン製で弾力性に富んだ作りになっているのが特徴で、硬さの異なる二つの層で出来ています。上層は柔らかく体への衝撃を和らげ、下層は硬く踏み込んだ足にしっかりと反力が伝わり「足が自然に前に出る感覚」で走れます。そんな特性から「マジックカーペット」と呼ばれていました。

さて、このマジックカーペットはカール・ルイスが走った陸上トラックでもあります。カール・ルイスは第3回世界陸上の男子100mにおいて、この陸上トラックの上で9.86秒の記録を打ち出し、世界記録を樹立しました。

博物館に展示している部分はちょうどスタートラインの位置。つまりカール・ルイスはこの上でスタートをきり、世界中の人々を熱狂させた栄光の瞬間へと駆け出したのです。

ちなみにこちらの陸上トラックは、お客様に実際に乗っていただくことも可能です。スターティングブロックに足をセットし、ほんの少し陸上競技の舞台を体感してみてください。かつて世界で一番速かった男、カール・ルイスの気分が味わえるかも知れませんよ。



カール・ルイス気分を記念撮影してください



## 国立競技場

サッカー	2013Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝	(11/2)
陸上	ファンランDAY2013～SAYONARA国立競技場～	(11/10)
陸上	第14回東日本マスターズ陸上競技大会	(11/16)
陸上	FITチャリティ・ラン2013	(11/17)
陸上	10000m記録挑戦競技会	(11/23)
陸上	第31回 JBMA神宮外苑ロードレース	(11/24)
ラグビー	関東大学対抗戦Aグループ 早稲田大学 vs 明治大学	(12/1)
陸上	第3回早稲田駅伝in国立競技場	(12/21)
サッカー	平成25年度 第62回全日本大学サッカー選手権大会	(12/25)
サッカー	第92回全国高校サッカー選手権大会開会式・開幕戦	(12/30)

## 秩父宮ラグビー場

ラグビー	リポビタンDチャレンジ2013 日本代表vsニュージーランド代表	(11/2)
ラグビー	第93回全国高校ラグビーフットボール大会 東京都予選決勝	(11/10)
ラグビー	第10回東日本トップクラブラグビーリーグ 決勝	(11/17)
ラグビー	第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 1回戦 2回戦 3回戦	(12/8) (12/15) (12/22)
ラグビー	第32回東日本中学校ラグビーフットボール大会 3位決定戦/決勝	(12/23)
ラグビー	トップチャレンジシリーズ イースト2位 vs ウェスト2位	(12/23)
ラグビー	関東大学対抗戦A 明治大学 vs 慶應義塾大学, 帝京大学 vs 早稲田大学 (11/3) 帝京大学 vs 明治大学 (11/17) 慶應義塾大学 vs 早稲田大学 (11/23) 慶應義塾大学 vs 帝京大学 (12/1)	
ラグビー	関東大学リーグ戦第1部 法政大学 vs 東海大学 (11/9) 中央大学 vs 日本大学, 東海大学 vs 流通経済大学 (11/24)	
ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ2013-2014 2ndステージ 第2節 (12/7) 第3節 (12/14) 第4節 (12/21)	
ラグビー	ジャパンラグビートップイーストリーグ ディヴィジョン1 ヤクルト vs セコム (11/4) 秋田ノーザンブレッツ vs 日野自動車 三菱重工相模原 vs 釜石SWRFC (11/30)	

## 代々木第一体育館

スケート	NHK杯国際フィギュアスケート競技大会	(11/8-10)
体操	2013日本体操祭	(11/16-17)
ヘアクットショー	第10回フューチャーズロード「デザインパワー」2013	(11/19)
新体操	第66回全日本新体操選手権大会	(11/22-24)
コンサート	namie amuro FEEL tour 2013	(11/26-27)
コンサート	ソナボケイズム SUPER LIVE 2013 ～ドリームシアターへようこそ!～	(11/29-30)
太極拳	太極拳全国交流大会2013	(12/1)
コンサート	B.A.P JAPAN TOUR	(12/4-5)
コンサート	namie amuro FEEL tour 2013	(12/7-8・10)
コンサート	西野カナ『Kanyan X' mas Special ～wish～』	(12/12-13)
チアリーディング	第25回全日本学生選手権大会	(12/14-15)

## 代々木第二体育館

空手	第5回極真CUP全日本空手道選手権大会	(11/3-4)
バスケット	第89回関東大学バスケットボールリーグ戦	(11/5-7)
バスケット	第15回Wリーグ JX-ENEOS vs 日立ハイテク	(11/8)
バスケット	NBL2013-2014 トヨタ vs 東芝	(11/9-10)
空手	2013 北斗旗全日本空道無差別選手権大会 2013 全日本空道ジュニア選手権大会	(11/16) (11/17)
バスケット	NBL2013-2014 日立 vs 東芝	(11/22-23)
バスケット	関東実業団バスケットボール選手権大会	(11/24)
バスケット	第65回全日本大学バスケットボール選手権大会	(11/26-12/1)
バドミントン	平成25年度全日本総合バドミントン選手権大会	(12/3-8)
フラダンス	kamehameha Nui 日本予選大会	(12/10)
バスケット	NBL2013-2014 トヨタ vs アイシン	(12/13-14)
レスリング	平成25年度天皇杯全日本レスリング選手権大会	(12/21-23)

## 味の素フィールド西が丘

サッカー	2013 Jユースカップ 第21回Jリーグユース選手権大会 1回戦	(11/2・4)
サッカー	第92回全国高等学校サッカー選手権大会 東京都大会 準決勝 決勝	(11/9-10) (11/16)
サッカー	JR東日本カップ2013 第87回関東大学サッカーリーグ戦 1部 筑波大学 vs 順天堂大学, 桐蔭横浜大学 vs 明治大学 (11/23) 日本体育大学 vs 中央大学, 専修大学 vs 早稲田大学 (11/24)	
サッカー	mobcast cup 国際女子サッカークラブ選手権2013 決勝戦	(12/8)
サッカー	第62回全日本大学サッカー選手権大会 2回戦 準決勝	(12/18) (12/22)

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。● <http://www.jpnsport.go.jp>

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)  
秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)  
味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

### 編集後記

1958年から発行し続けて49年。創刊600号を迎えました。本紙編集担当になってから4年目になりますが、歴史の重みを感じずにはいられません。昨年発行した「国立競技場50年の歩み」も、本紙がなければ到底完成し得ませんでした。書き続けられてきた記録は、保存すべき貴重な財産であると共に今後も新たな歴史を残し続けていかなければなりません。来年には現国立競技場は解体され、2019年に向けて新しく生まれ変わろうとしています。2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、そのメイン会場となる新しい競技場が注目されていますが、約半世紀、「日本を代表するスタジアム」「スポーツの聖地」と称され多くの名勝負を人々の記憶に刻んできた今の競技場へ、残りの期間精一杯の敬意を表し、新しい競技場へ歴史を繋ぎ、最期を迎えていただけてこそ、「生まれ変わる」意味があると感じています。皆さん是非、国立競技場に会いに来てください。そして「お疲れ様」と声を掛けてくださると嬉しいです。(H)

### 国立競技場 第600号

2013年11月1日発行 (隔月発行)

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号

tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス

